

レンガの家 - 北海道鹿追町 -

北海道一帯は十勝平野に位置する人口5千人の鹿追町は田園風景が広がり、暮らしと農業が交差している。本プロジェクトでは宅老所を中心にカフェやライブラリーを併設し多機能で複合的な福祉活動を地域に開き展開すること、新たな拠点「レンガの家」をつくる目的である。空間のあり方は、既存棟を宅老所、その他機能を増築棟に集約し、その2棟を大屋根と縁側で包み込むことで各々の機能が共有し重なり合う。更にレンガの家の周囲にある農作業用の敷地内通路は残し、既存納屋や牛舎の基礎を利用して畑のダイニング、森のアトリエ、ホースガーデンを整備し、一般的な福祉サービスとは異なる機能を敷地内に共存させることで地域に積極的に開き、日常生活と福祉のグラデュエーションな共生を目指す。また土地の記憶を頼りに、地域に見られる形態や素材をレンガの家に結び付けることで地域の人々に受け入れられる寛容な佇まいとして農村風景への接続を試みた。



農家に残された陸屋根や空家となった既存棟(レンガの家)、解体された牛舎の基礎も含めたランドスケープを可能な限り再利用することで土地の記憶を継承し、更に新しく付加する形態や素材も既存レンガを基盤に地域のサーバイから導き出すことで、農村風景への接続を試みた。



北国の風除室の役割も担う南面採光の縁側では大きな窓から四季や風景の移り変わりを感じ、福祉と日常生活が共存する公共性の高い開かれた場となることを意図している



既存棟と増築棟が大屋根と縁側で包まれることで内部と外部のグラデュエーションが生まれる



既存ベテカを利用した宅老所のキッチンダイニングが農と食をつなぎコミュニケーションを促す



地域に開放された2Fアトリエ・ワークスペース・ライブラリーに農家の主婦や地域の子供たちが集まる

■敷地 / 都市と農村の境界



■敷地の既存資源

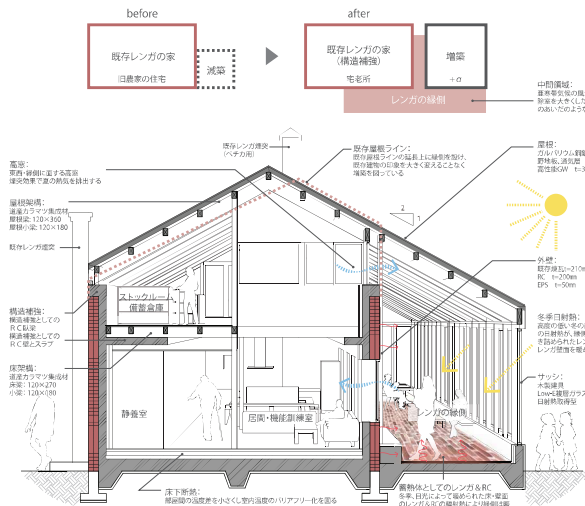
- 日常**
 - 子ども: 小学校、中学校の通学路
 - 子ども服の散歩道
 - シニア世代: 老人保健施設の散歩道
 - 近隣の福祉活動: 近隣の福祉活動
 - 農業: 農業祭
 - 機会: 祭り、収穫などの農作業
- 記憶**
 - 住居の名士の家: 形跡的住居の生家として(町)に載し込まれている
 - 心づかみガサカ: 赤レンガが特徴的な家として記憶されている
 - 納屋・牛舎基礎: 農家の基礎が敷地内に点在している
- 素材**
 - カラムシの瓦葺: 種葉産地である北海道では銀金銀葺が地域に根付いている(伝統的)カヌマツドモツ
 - 北海道(寒冷地)で生育し、外観や構造性に採用される地域産木材(赤湯杉)
 - 森の記憶継承: ビーチハウスや農家屋にみられる、裏と前面を区別する役割

■農村風景への接続 / 土地の記憶を継承しまち化する施設



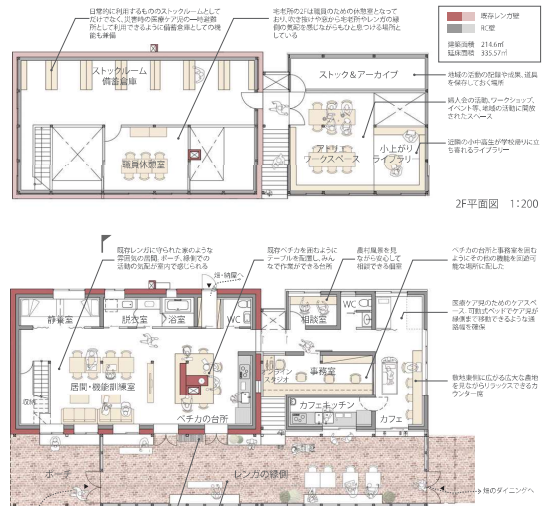
配置図 1:1000

■亜寒帯気候の縁側(中間領域) / 気候風土に合わせてリノベーション



断面図 1:100

■開かれた施設 / 福祉施設と日常生活のあいだ



1F平面図 1:200

2F平面図 1:200